

親鸞と道元の究極思想の比較研究

A Comparative Research of Shinran's and Dohgen's Last Thinkings

プロジェクト代表者：渋谷 治美（教育学部・教授）

Shibuya, Haruyoshi

(Faculty of Education・Professor)

1 研究の経緯

十年以上継続している日本思想研究会（一橋大学教授・平子友長、埼玉大学・渋谷治美、他6名）において一昨年から渋谷の主導で道元の『正法眼蔵』の読解に取り組んできた。平成18年4月以降も「現成公按」の巻、「仏性」の巻を時間を掛けて読み解いている。

親鸞については、上記の日本思想研究会において、数年前に『教行信証』を読み通した。渋谷にとっては、大学院博士課程以来二度目の通読であった。これによって親鸞の「究極思想」についての渋谷独自の把握が得られた。しかし、平成18年度には親鸞については、それ以上の研究の進捗は得られなかった。

したがって、一方で道元の「究極思想」についての研究は進んだが、親鸞と道元の「究極思想の比較研究」は進まなかった。

2 研究成果

平成18年10月から12月に掛けて、道元の「究極思想」について論文を執筆した。それが下記の成果となった。

「道元における循環の問題——『正法眼蔵』第一巻「現成公按」読解試論——」

森田武教授退官記念会編『近世・近代日本社会の展開と社会諸科学の現在』

（2007年6月、新泉社刊）所収、pp.383-409

3 研究の公開

上記の論文の抜刷を平成19年6月に全国の日本思想研究の知人友人を中心に70人以上に送付した。その後続々と読後批評が渋谷の許に寄せられている。

4 研究の今後

道元については近々、「仏性」の巻を中心にもう一本論文を執筆する予定である。親鸞についても、すでに暖めている構想に基づいてその後に論文を執筆する予定である。

2の研究成果、上に述べた二本の論文と、すでに書いてある親鸞、道元関係の諸論文と併せて、近い将来、『親鸞と道元の究極思想』（仮）と題して、上梓したい。